

# 第 657 回

# 日本小児科学会東京都地方会講話会

# プログラム

日 時 2019年9月14日(土) 午後2時00分

場 所 東京医科大学新病院 9 階臨床講堂



### 次回以降開催予定日

2019年10月12日(土) 飯田橋レインボービル7階

2019年12月14日(十) 東京医科大学新病院9階臨床講堂

2020年1月11日(土) 東京医科大学新病院9階臨床講堂

2020年2月8日(土) 飯田橋レインボービル7階

世話人

プログラム係 熊田 篤

東京医科大学小児科 03(3342)6111  
(FAX) 03(3344)0643

会 場 係 熊 田 篤

東京医科大学小児科 03(3342)6111  
(FAX) 03(3344)0643

事務局 (1111) 03 (5388) 7007

e-mail:instkyo-office@umin.ac.jp

# 第 657 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題 6分、指定発言 5分、追加討論 3分以内、厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:35

座長 庄司 健介（国立成育医療研究センター感染症科）

1) ワクチン未接種の乳児における麻疹症例の経過

○鹿島田 渉、宮奈 香、山本 青葉、草川 剛、大石 芳久、土屋 恵司

(日本赤十字社医療センター小児科)

新生児 1 例、乳児 3 例のワクチン未接種月齢の麻疹を経験した。全例単峰性の熱型で、コブリック斑は病初期に出現した。受診時の症状は発熱 4/4、発疹 3/4、カタル症状 3/4 であったが、接触歴から咽頭拭い液での麻疹 PCR 検査を行い全例陽性となった。流行中では積極的に検査を行う必要性を再認識した。

指定発言 馬渡 桃子（日本赤十字社医療センター感染症科）

2) ヒトメタニューモウイルスによる肺炎に合併したたこつぼ型心筋症の 1 乳児

○高見澤幸一<sup>1)</sup>、小野 博<sup>1)</sup>、小澤 由衣<sup>1)</sup>、小川 陽介<sup>1)</sup>、林 泰佑<sup>1)</sup>、進藤 考洋<sup>1)</sup>、三崎 泰志<sup>1)</sup>、木戸口千晶<sup>2)</sup>、西村 奈穂<sup>3)</sup>、賀藤 均<sup>1)</sup>

(国立成育医療研究センター循環器科)<sup>1)</sup>、(同 感染症科)<sup>2)</sup>、(同 集中治療科)<sup>3)</sup>

過去に報告の少ない乳児重症肺炎にたこつぼ型心筋症を合併した 10 か月女児を経験した。重症肺炎の診断で ICU に入室し、喀痰 PCR よりヒトメタニューモウイルスが検出され、心エコーで心尖部に限局した左室収縮低下を認めた。心筋生検で異常所見は認めなかった。集中治療が奏功し呼吸機能、心機能とも改善した。

3) 関節吸引が疼痛軽減に有用であったパルボウイルス関連股関節炎の 1 例

○今村 忠嗣<sup>1)</sup>、中尾 寛<sup>1)</sup>、松井 俊大<sup>2)</sup>、河野 直子<sup>2)</sup>、溝田 満<sup>1)</sup>、石黒 精<sup>3)</sup>

(国立成育医療研究センター教育研修センター総合診療部)<sup>1)</sup>、(同センター感染症科)<sup>2)</sup>、(同センター教育研修センター)<sup>3)</sup>

生来健康な 4 歳女児。伝染性紅斑罹患後に両側股関節炎を発症した。血清パルボウイルス (HPV) IgM 抗体が上昇しており、関節液中に HPV 遺伝子が検出され、HPV 関連股関節炎と診断した。関節穿刺の直後から疼痛の消退を認め、有症状期間が過去の報告より大幅に短縮した。本疾患では関節穿刺が症状軽減に有用であった可能性がある。

第 2 グループ 14:35—15:00

座長 山崎 崇志（東京医科大学小児科）

4) 免疫不全のない小児に生じた *Eikenella corrodens* の歯性感染による眼窩周囲蜂窩織炎の 1 例

○高橋美乃里、江口 梢、金淵昭一郎、梅原 直、稻井 郁子、長谷川大輔、小澤 美和、草川 功 (聖路加国際病院小児科)

5 歳男児。発熱と眼周囲腫脹で受診した。CT で歯根部から上顎側・鼻腔にかけての膿瘍とそれに伴う周囲の脂肪織濃度上昇を認め、眼窩周囲蜂窩織炎と診断した。膿瘍から日和見感染菌である *Eikenella corrodens* が検出されたが、検索した限り免疫不全の所見はなかった。歯性感染を契機に眼周囲にまで炎症が波及したと考えられた。

## 5) 骨髄移植後の IgG2 選択的低値時に発症した侵襲性肺炎球菌感染症

○坂川由里歌<sup>1)</sup>、友田 昂宏<sup>1)</sup>、森下あおい<sup>1)</sup>、井上 健斗<sup>1)</sup>、岡野 翼<sup>2)</sup>、山下 基<sup>2)</sup>、  
神谷 尚宏<sup>1)</sup>、水野 朋子<sup>1)</sup>、磯田 健志<sup>1)</sup>、柳町 昌克<sup>1)</sup>、金兼 弘和<sup>2)</sup>、高木 正穏<sup>1)</sup>、  
今井 耕輔<sup>3)</sup>、森尾 友宏<sup>1)</sup> (東京医科歯科大学小児科)<sup>1)</sup>、  
(同 小児地域成育医療学)<sup>2)</sup>、(同 茨城県小児・周産期地域医療学)<sup>3)</sup>

症例は Wiskott-Aldrich 症候群に対し骨髄移植後 1 年 4 か月の 1 歳 11 か月男児。発熱・痙攣・意識障害を主訴に侵襲性肺炎球菌感染症を発症した。移植後のワクチン接種で肺炎球菌特異抗体は陽性であったが、総 IgG2 が 33 μg/mL と低値であった。移植後は IgG2 が回復するまで莢膜を持つ細菌の感染に注意が必要である。

指定発言 宮入 烈 (国立成育医療研究センター感染症科)

休 憩 15:00—15:10

感染症だより 15:10—15:30 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 齋藤 義弘 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科)

砂川 富正 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 (iii 小児科領域講習) 15:30—16:30 (講演:50分+質疑応答:10分)

座長 石黒 精 (国立成育医療研究センター教育研修センター)

## 予防接種と免疫不全

高田 英俊 (筑波大学小児科)

結合型 Hib ワクチンおよび結合型肺炎球菌ワクチンの導入は、侵襲性細菌感染症の頻度を著しく低下させた。近年、免疫不全状態における感染症への対策の重要性が増してきていると言える。原発性免疫不全症患者では、ワクチンが有効ではない場合もあり、さらに生ワクチン自体による感染症が発症したり、ワクチンに対する過剰な反応が生じるなど、副反応の発生が大きな問題である。予防接種によって誘導される免疫の原理を概説し、副反応の具体例を提示するとともに、代表的な原発性免疫不全症におけるワクチン接種について述べる。

休 憩 16:30—16:35

第 3 グループ 16:35—17:05

座長 二川 弘司 (東京都立小児総合医療センター臨床遺伝科)

## 6) 精神発達遅滞を伴う Angelman 症候群の食道異物の 1 例

○大岩 純平、赤松 信子、高木健太郎、直宮 理絵、山田ひかり、 笹本 武明、杉本 麻衣、  
三浦 太郎、熊田 篤、河島 尚志 (東京医科大学小児科)

5 歳男児。1 週間の食思不振と、食物摂取時の喘鳴を主訴に救急受診。胸部X線では明らかな異常を認めなかっただが、造影 CT 検査で食道に異物を認めた。全身麻酔下で上部内視鏡にてラムネの蓋を摘出した。言語遅滞および、精神発達遅滞により診断、治療までに時間がかかった 1 例を経験した。文献的考察を加え報告する。

7) 無治療のヒト免疫不全ウイルス感染母体より出生した新生児の管理経験

○松田 健剛、長野 伸彦、秋本 卓哉、香山 一憲、清宮 綾子、加藤 亮太、岡橋 彩、  
森岡 一朗 (日本大学板橋病院小児科)

母親は27歳の初産婦。妊娠29週まで未妊娠で、妊娠31週6日にヒト免疫不全ウイルス(HIV)抗体陽性と判明した。母体HIV-RNA量が高値(2700 copies/mL)のまま、在胎37週2日に予定帝王切開で出生した。分娩直前の母体へのジドブシン投与、分娩直後の児の全身と眼球の洗浄、入院後の抗HIV薬の多剤併用療法と完全人工栄養により児への感染を予防することができた。

8) 医療従事者と児相が虐待の背景事情を共有することで母子再統合の契機となった1例

○篠原 嶺、中村俊一郎、鶴田 夏子、高橋 孝雄 (慶應義塾大学小児科)

公共の場で母親から身体的な虐待を受けた5歳男児。患児、母親ともに先天性の身体障害を有していた。母子分離中の母親面接で病気を抱えて生きてきた母親の苦労、社会への不信感が語られた。虐待の背景にある母親の思いを小児科医が児相に代弁した結果、児相が母親に対し協力的となり、母子再統合、継続的なフォローが可能となった。

第4グループ 17:05—17:25

座長 堤 範音 (厚生中央病院小児科)

9) 超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNAB)が診断に有用であった胃前庭部迷入脾の1例

○西村 拓朗<sup>1)</sup>、三森 愛美<sup>1)</sup>、細井 賢二<sup>1)</sup>、北村 裕梨<sup>1)</sup>、箕輪 圭<sup>1)</sup>、神保 圭佑<sup>1)</sup>、  
遠藤 周<sup>1)</sup>、安部 信平<sup>1)</sup>、春名 英典<sup>1)</sup>、工藤 孝広<sup>1)</sup>、清水 俊明<sup>1)</sup>、福嶋 浩文<sup>2)</sup>  
(順天堂大学小児科)<sup>1)</sup>、(同 消化器内科)<sup>2)</sup>

14歳女子。前医に急性胃腸炎で入院した際の腹部超音波検査と造影CTにて胃前庭部に腫瘍性病変を認めたため、当科紹介となった。当科で実施した上部消化管内視鏡検査で同部位に非上皮性粘膜下腫瘍を確認し、性状評価目的に実施した腹部MRIにて消化管間質腫瘍も疑われたため、EUS-FNABを施行したところ胃迷入脾の診断に至った。

10) 早期に発見し得た胆囊捻転症の女児例

○武田 翔<sup>1)</sup>、櫻谷 浩志<sup>1)</sup>、丸山 和隆<sup>1)</sup>、大石 賢司<sup>1)</sup>、西山 樹<sup>1)</sup>、秋谷 梓<sup>1)</sup>、  
佐藤 真教<sup>1)</sup>、丘 逸宏<sup>1)</sup>、吉田 登<sup>1)</sup>、辻脇 篤志<sup>1)</sup>、鈴木 恒子<sup>1)</sup>、田中 奈々<sup>2)</sup>、  
浦尾 正彦<sup>2)</sup>、山高 篤行<sup>3)</sup>、新島 新一<sup>1)</sup>、大友 義之<sup>1)</sup>  
(順天堂大学練馬病院小児科)<sup>1)</sup>、(同 小児外科)<sup>2)</sup>、  
(順天堂大学順天堂医院小児外科)<sup>3)</sup>

12歳女児。2日前から腹痛が出現し来院時著明な右季肋部痛を認めた。肝胆道系酵素・炎症反応は正常で、腹部造影CTで胆囊腫大と壁の一部造影不良を認め胆囊捻転が疑われた。緊急手術で720度の胆囊の捻転を認め胆囊摘出術が施行された。胆囊捻転は緊急手術を要する急性腹症だが、小児例は稀で小児内科医の認知度は低い。画像的特徴を含め報告する。

## 【運営委員会だより】

1. 第 657 回講話会（2019 年 9 月 14 日）プログラム編成の骨子についてと座長は検討中である旨の報告があつた。
2. 第 657・658・659 回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長が確認された。
3. 東京都地方会で作成する「緊急時を念頭にしたメーリングリスト」について、これまで 723 名（全会員の約 33%）の登録があったことが報告された。
4. 第 656 回講話会（7 月）の出席者は、269名、ベビーシッタールーム利用者 5 名、前回講話会以降の新入会者は 17 名、退会者は 1 名であったことが報告された。

## 【演題の申し込みについてのお願い】

- 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- 原則として指定発言をつけて下さい。（共同演者から指定発言は頂けません）
- 演題の締切は次のようになります。
- 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承下さい。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年 11 月 30 日	2月	前年 12 月 25 日	3月	1月 31 日
5月	2月 28 日	6月	4 月 22 日	7月	5 月 31 日
9月	6 月 30 日	10月	8 月 31 日	12月	9 月 30 日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承下さい。

その場合、事務局よりご連絡します。

## 【演者の先生方へのお願い】

- 一次抄録は 160 字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の 200 字以内を厳守くださるようお願い致します。（原稿はワード入力で e-mail にて事務局へお送り下さい。）
- 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）に Take Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

## 【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- 退会される場合も必ずご連絡下さい。お届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

## 【事務局よりご連絡】

- 教育講演には日本小児科学会専門医新制度における専門医共通講習または小児科領域講習の単位が付与されています。  
受付開始から教育講演開始時間まで引換券を配布しますので、教育講演終了後から講話会終了までの間に引換券と聴講証とを交換して下さい。  
なお、引換券は当日限り有効です。  
また教育講演開始後に入場、及び終了前に退出された方には聴講証はお渡しできません。
- こどもの健康週間パンフレットは 2016 年版と 2017 年版も在庫がございます。ご希望の先生は事務局までご連絡下さい。なお在庫の関係でご希望部数をお送り出来ない場合がございますことをご了承下さい。
- 7 月の講話会より会場が東京医科大学の敷地内に新設されました新病院 9 階臨床講堂での開催となっておりますのでご注意下さい。また、週末は病院正面玄関が閉鎖されておりますので、防災センター入口をご利用下さい。

## Presentationについて

発表は Computer Presentation (Windowsのみ可、Macは不可) のみで受け付けます。MacのPC持ち込みによる発表はご遠慮下さい。Powerpoint 2000以上で作成、Font文字はPowerpoint備え付けのみ。CD-RもしくはUSBメモリーにて、第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルスcheckをお願い致します。

## 動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ①一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようにお願い致します。
- ②動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

## 〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の**10日前**までに問診票をダウンロードし、必要事項を記載の上、事務局へe-mailまたはFAXでお申し込み下さい。問診票は東京都地方会ホームページにございます。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願い致します。連絡のないキャンセルの場合は、次回以降の利用をご遠慮頂く場合がございます。なお費用は学会が負担致します。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193  
e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp

## オススメ書籍のご案内



### ADHDと多動性障害 ～ADHDと多動性障害の臨床像・診断評価・治療のハンドブック～

翻訳・監修：岡 明  
判型：四六判  
頁数：186  
価格：5,000円+税

### 最新感染症ガイド R-Book 2018-2021

編集：米国小児科学会  
監修：岡部 信彦  
判型：菊判  
頁数：1208  
価格：19,000円+税



### 最新小児 皮膚疾患ガイド

編集：米国小児科学会  
監修：秀道広、小林 正夫  
判型：菊判  
頁数：754  
価格：13,000円+税



### T式ひらがな音読支援の理論と実践 ～ディスレクシアから読みの苦手な子まで～

著者：小枝 達也  
関 あゆみ  
判型：B5判  
頁数：96  
価格：3,000円+税



ホームページ



日本小児医事出版社

〒160-8306 東京都新宿区西新宿5-25-11 2F  
TEL : 03-5388-5195/FAX : 03-5388-5193

